

平成 25 年度特別養護老人ホームさの事業報告

1 事業運営

(1) 利用実績

	特養 定員 100 名				ショート 定員 6 名			全体 106 名	
	実延 人数 a	入院 延日数	稼働率 a/ 延定員	退所 人数 (実)	実延利 用人数 b	緊急 延利 用 (内)	ショート利 用率 (空床 利用含む)	実利用 (延べ) a+b=c	稼働率 c/(106×日 数)
年間	34,347	1624	94.1%	24	3,272	3	149.40%	37,619	97.2%

稼働率等

*ショート利用率(ショート利用延人数/ショート延定員)

<説明>

*年間稼働率は前年度の 99.0%より低下した、これは入院者の増・退所者の増に起因するものと考えられる。また看取りケアによるベッドの確保も要因として考えられる。

*退所者 24 名のうち看取りによる退所 10 名、転院 1 名、在宅 1 名

*平均年齢 平成 26 年 3 月 82.5 歳

②要介護度 (人数)

介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
26.3.31 現在	1	2	7	43	46	99
25.3.31 現在	1	3	13	40	42	99

<説明>

*年度末における平均介護度は 4.3 であり、年々高まってきている (昨年度 4.2)。多床室である当施設への入所希望者は、経済的な面と在宅での介護力がなく介護度 4・5の方が多くなっている。

(2) 苦情等

職員対応	4 件	サービス内容	21 件
------	-----	--------	------

<説明>

- ・ショートステイ利用にかかわる苦情が多くなっている。利用中のご家族からの要望についての連絡が十分に伝わらず発生していることがあるため、情報共有の在り方を検討していく必要がある。
- ・ケアマネージャーからの申し出が 6 件あった。丁寧な説明を行い理解いただける関係作りを進めていく。

○ ひやりはっと報告件数

	転倒	転落	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	伝達 確認	忘失	異食	単独 外出	食事	破損	利用者間	その他	合計
25年度	29	19	6	1	0	6	3	2	2	5	0	0	2	6	81
24年度	35	33	1	0	2	16	0	4	3	0	2	0	0	2	98

○ 事故報告件数

	骨折	転倒	転落	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	伝達確認	忘失	異食	単独外出	食事	器具破損	利用者間	その他	合計
25年度	4	101	37	12	1	0	39	16	0	2	0	2	9	4	4	227
24年度	8	104	48	12	1	0	64	7	1	3	0	2	8	5	7	262

<説明>

- ① 転倒・転落は未然に防げたものはひやりはっとし、怪我は無くても転倒・転落してしまったケースは事故報告書として記載している。
- ② 離床センサーの設置によりベッドからの転落を防ぐ対策を講じている。スイッチ等のし忘れでの転倒防止へ指さし確認の行動に取り組んでいる。件数が減少してきているが、離床時にセンサーが反応しなかったことによる、ひやりはっとや事故報告があるため機器の動作確認も行っていくようにしていく。

(4) 利用者嗜好調査

3月初旬聞き取り方式で実施した。

- ・結果として皆さんの好物は天ぷら・お寿司が上位、誕生日やお祝い時に食べたいものとしては同様に寿司・天ぷらの順でうなぎが3位、刺身が4位でした。調査人数24名（回答可能な方）のうち満足65%やや満足4%普通23%で合わせると92%の方は不満なしとの評価だった。
- ・23年度の同じ質問の結果と比較すると、普通から満足に10%程度転じている内容であり多くの方に満足いただけている結果となった。嚥下調整食の導入により極キザミをなくし、おいしく食べやすくした事、献立の季節感や色彩に気を配った提供、テーブルや自助具の工夫と、トロミ濃度の調整など個別の対応で利用者のニーズにあった提供が実現できた事により満足感が得られるようになってきたと思われる。

(5) 第三者評価受審

25年度は隔年実施される第三者評価を実施した

利用者調査 100名中6名の聞き取りを実施

大変満足、満足を選択した利用者は6名中5名

- ・ここで嫌だと思わないこと
- ・食事が楽しみ
- ・介助なしでトイレに行きたいが大便のとき困る

*職員によって言葉使いや対応に差があるとの意見が散見された

講評

- ・法人理念と施設方針の浸透を図る様々な取組を通し、職員が主体的に行動できる職場風土が形成されている。
- ・利用者の健康管理として口腔ケアの取り組みがチームケアによって進められ、有効な結果に繋がっている。

1 組織連携・多職種連携によるケアの推進

重点事業	結果（成果説明、評価、今後の課題）
【チームケアの充実】	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携は概ね取れていた。職員同士の意見交換の場も良く見ることができていた。 ・ケアの質を高めるため、できるだけリーダー層が外部研修に参加できるようにした。その研修を活かして、内部研修の講師役となり内容の再確認や職場での自分の役割を意識することができた。 ・2階、3階の職員フロア固定により、ご利用者の状況が把握しやすくなりニーズが引き出せるケアプラン作成が可能になってきている。 ・ご利用者の状態把握や医療処置については、朝夕の申し送り、ファイルメーカー活用での記録、またサービス担当者会議等で情報の共有化が進み、他職種との連携

	<p>が取れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の変化や出来事の報告が迅速に入るようになった。
【重度・医療的ニーズの高い利用者や認知症の方への対応力の強化】	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は日本歯科大訪問診療によるVE(内視鏡)検査の導入により、利用者様個々の摂食・嚥下状態の把握がより鮮明にできるようになった。食事介助方法、ポジショニング、栄養補助等各セクションとの連携により対応力を引き上げる事ができた。口腔内を映像で見る事や専門的な指導をうけて、食事時の細かい対応の違いで誤嚥を防ぐ手助けとなる事など職員の意識の向上につながった。 ・看護師による医療研修が行われ、具体的に個々の利用者様について理解が深まった。利用者様のレベルも重度化し夜間急変等が増えてきているのでそれに伴った対応ができるよう継続的な研修が必要である。 ・東京都の吸痰胃瘻研修を実施しているが、外部への講義だけでなく現場での実地研修終了を含めると期間を要している。 ・胃瘻・吸引研修を行い介護職員のスキルアップを行った。また、常勤・夜勤を行う非常勤職員へバルン留置カテーテル・糖尿病・在宅酸素について研修を行った。 ・看取り評価について各現場で職員意見をまとめ反省と今後に生かせるようにした。 ・極キザミ食全員とミキサー食の方のうち約半分が嚥下調整食に変更になり3月末現在約25名の方に提供している。誤嚥の危険性の高い方達により安全でおいしく提供できるようになった。残食も減っている。 ・食事低下者や看取りの方の対応として無理のない食事提供を行った。

2. 利用者一人一人の能力に応じた自立支援

重点事業	結果(成果説明、評価、今後の課題)
機能訓練職員と介護職員等の協働による生活リハビリの実施	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者各人の機能訓練評価に基づく適切な「体位交換」「ベットや車いす上ポジショニング(良肢位)」の方法についてベッドサイドに写真を貼り、訓練担当をとおし介護職員全体に意識付けをした。その結果、退院時や変化のあった時には担当職員がポジショニングや車椅子などについての相談が来るようになった。 ・ショートの利用において訓練やレクリエーションへの参加希望の方が増え、レクリエーションなどの実施予定日を利用希望される方もいる。 ・看取りの利用者様に循環不全解消やスキンシップのためのマッサージを実施している。

3. 「生活の潤い」の確保

重点事業	結果(成果説明、評価、今後の課題)
生活空間の環境整備	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備自己点検表を使用し行なってきたが点検後も不具合がある場合があった。確実に点検できているか再チェックが必要である。 ・ベッド10台を更新。 ・EV工事に伴う倉庫の増設により、施設全体の荷物整理に取り組むことができるようになった。
個々の生活リズムに沿ったサービスの提供	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの誘導時間を個々の排泄時間を調べ、それに合わせてリズムを作っている。 ・食事時間もその方の生活リズムを尊重し二部制にして提供している。 ・利用者様によっては午前、午後の離床時間を設定している。

<p>生きていることの意味を味わえるような行事等の実施</p>	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週の活動の中に機能訓練担当者を中心にカラオケや体操を取り入れてきた。 ・町内婦人会有志で行われている喫茶「いっぷく」は月・水・金に開催され、1階でデイサービスのご利用者を楽しめる機会となっている。 ・隔月に開かれる居酒屋も喫茶同様、新規利用者の希望が増えて参加者が増えている。またご家族の参加も増えて、一緒に歓談する様子が見られるようになった。 ・デイとの合同の3日間の夏まつり、望年会には家族やボランティアの協力を得て殆んどの利用者が参加することができた。
---------------------------------	---

4. 職員ひとりひとりの力による信頼される施設づくり

重点事業	結 果 (成果説明、評価、今後の課題)
<p>目標の共有化</p>	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な情報については、ファイルメーカーや会議等で共有化が定着してきている ・担当者会議にご家族が参加することで情報の共有を図ることができる事が望ましいがご家族の参加率が減りつつあった。普段の面会時などにご家族に情報を提供できるよう積極的に声掛けをおこなった。
<p>利用者・家族への説明と納得に基づくサービスの提供</p>	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議で家族・本人参加で説明を行った。健康状態に応じ細かい医療的な説明を行うように主治医へ働きかけ家族の理解を得る場面を増やすことができた。状況に応じ直接家族へ電話で状態説明を行った。 ・施設内で起きたことは、小さな変化も迅速に伝えてきた。(一部望まない家族は大きな変化のみ) 特に受診や拘束、看取り開始等にあたっては、ご家族の理解が得られるよう丁寧に説明するよう努めた。
<p>信頼と協力関係の確保</p>	<p>成果説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間標語に「職員ひとりひとりの力による信頼される施設づくり」を掲げ、毎月の施設内ポスターでも喚起を図ってきた。 ・年2回の家族懇談会では、フロアごとの懇談会を行いご家族からの意見が出やすい雰囲気づくりに努めた。 ・看取りを進めてきた中で法人理念の「今を大切にする」という意識がより一層職員のケアの質を高めてきている。家族懇談会の際、ドクターより看取りについてお話をしていただいた。

平成25年度足立区さのデイサービスセンター事業報告

1 事業運営

さの通所介護 通常規模施設（1月750人以内）

さの認知症デイ 1日24名

（1）利用実績

<月別利用者> 上段 1日平均利用者数（単位：人） 下段 稼働率【対月750人】（単位：%）

○一般デイ

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度
31.2	31.1	31.1	33.2	31.8	32.6	33.5	32.6	34.0	33.5	33.8	33.4	32.6	29.0
108	112	103	119	114	114	120	113	113	107	108	116	112	99.7

○認知症

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年度 1日
16.9	16.3	16.2	17.5	15.8	15.8	27.0	16.7	16.8	17.1	15.9	16.5	16.6	15.8
70.5	68.2	67.6	73.1	66.0	66.0	70.8	69.8	70.1	71.5	66.5	68.9	69.1	64.0

<要介護度状況>

（平成25年3月登録者）

割合	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均 要介護度	平均年齢
通所	20.7%	31.7%	23.2%	13.4%	11.0%	2.6	81.0歳
認知症	3.9%	11.8%	21.6%	29.4%	33.3%	3.8	81.8歳

介護予防 通所	要支援1	要支援2	平均年齢
	22.7%	77.3%	80.6歳

（2）苦情等

送迎ミス	12件	職員の言動	1件
------	-----	-------	----

（3）事故

○ひやりはっと

	転倒	転落	送迎	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	忘失	異食	離脱	食事	破損	確認不足	利用者間	交通事故	その他	合計
25年度	8	2	4	1	0	0	1	21	0	13	0	0	12	0	0	1	63
前年度	19	7	4	1	7	1	2	24	0	13	3	1	8	2	0	5	97

○事故報告件数

	転倒	転落	送迎	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	忘失	異食	離設	食事	破損	確認不足	利用者間	交通事故	その他	合計
25年度	12	1	12	2	7	0	4	24	0	1	0	3	20	0	4	4	94
前年度	21	3	19	2	6	0	12	27	2	2	2	1	17	0	4	1	119

*説明 転倒による骨折等受診につながる事故は発生していない
交通事故は、施設内外での軽微な接触事故である。バック走行時の誘導がいなかったことが原因だったため、添乗職員が必ず下車して誘導することの徹底を図った。

(4) 嗜好調査

- ・3月初旬聞き取り方式で実施した。

結果として、刺身やお寿司、天ぷらが上位、誕生日やお祝い時に食べたいものとしては同様に寿司・赤飯の順でうなぎが3位、刺身が4位だった。調査人数96名（一般デイのみ）のうち満足66%やや満足7%普通18%で合わせると91%の方は不満なしとの評価であった。

- ・昨年のアンケートでも寿司と答えているのに出してくれないではないかとの指摘もあった。行事食の際には刺身やお寿司など多く提供しているが、出席日が行事に当たらない場合など、曜日によっては回数が少ないように感じられたかもしれない。

- ・昨年指摘を受けた禁止食提供ミスの対応については、食器等を区別する事により事故を防ぐ事ができ、今年度は高い評価をいただけるようになった。

- ・デイサービスでも極キザミ食やミキサ一食から嚥下調整食に変更し、毎日2~3名程度提供した。摂食嚥下困難者に、より安全でおいしく食べやすい食事の提供ができた。

(5) 第三者評価受審

- ・25年度は隔年に実施している第三者評価を受審。

利用者アンケートより

アンケート実施数 通所介護利用者 81名配布 66名回収

「大変満足」「満足」を選択 66名中 53名

自由意見 ・さのデイサービスを生きがいにしている

- ・在宅介護のみだったら親子共倒れになっていた

- ・職員によって対応が違う ・リハビリを充実させてほしい・トイレを増設してほしい

講評より

- ・職員が主体性を発揮させる職場内風土が醸成されている
- ・利用者個々の状態にあった柔軟な食形態の提供に努めている
- ・居宅支援事業所・地域へ存在を更にアピールしていく必要がある

2 25年度重点事業の結果

重点事業	結果（成果説明、評価、今後の課題）
1. ご利用者への丁寧なサービス提供	
1) 通所介護 ニーズに応じた 楽しい場所作り	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動的・静的なレクを用意して自己選択で参加を促した ・7h-9h利用者は全体の3割。散歩など少人数での活動を取り入れた ・可能な限り入浴・送迎のニーズには応えた結果、大幅な稼働率向上に繋がった。

<p>2) 認知症通所介護</p> <p>ご利用者の状態に合わせた幅のある活動の設定</p>	<p>成果</p> <p>季節を感じることでできる活動に配慮した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の散歩、谷中デイとの合同外出などを取り入れ、季節を肌で感じてもらう活動の提供 ・季節感を大切にした手作業を実施 ・見守りボランティアの導入により、職員がより重度の方への個別対応に関わることができた。(平均 週 3回 程度)
<p>家族支援の強化</p>	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、送迎時にご家族との情報共有が行えるよう努めた。 ・担当者会議にも職員間でシフト調整し、可能な限り出席し「利用者情報をケアマネ、家族へ伝えることが出来た。 ・年度末に家族懇談会を実施し、施設・家庭での様子を確認するとともにご家族同士の介護の不安や苦労を共有できる場として好評を得た。

2. 職員のスキルアップ

<p>① 職員の認知症への理解と対応、情報の共有の工夫</p> <p>② 介護支援中の事故を起こさない</p> <p>③ 送迎や連絡、忘れ物など単純なミスをなくす</p> <p>(評価 B)</p>	<p>成果</p> <p>① 正規職員は7日間の東京都認知症実践者研究、契約職員は同研修公開講座2日間の研修に全員が参加するよう例年計画している。</p> <p>② 大きな介護事故は発生しなかったが、職員の見守りが不在時の転倒や尻餅、窒息など1つ間違えば大事になる危険はあった。見守りが必要な方の情報の共有や見守りのポイントなど再確認が必要。</p> <p>職員同士での移動介助・ベッド介助の研修を実施</p> <p>③ 添乗職員・帰宅準備職員・リーダー職員で荷物確認を行った送迎忘れは24年度と比較すると二重確認を行うことで減少課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物の二重確認は行っていたが帰宅後に発見することも多々あり完全にミスがなくなることはなかった。
---	---

平成 25 年度足立区谷中デイサービスセンター事業報告

1 事業運営

(1) 利用実績

<月別1日平均利用者数> 定員1日12名 309日稼働

*上段 1日平均利用者数(単位:人) 下段 稼働率(単位:%)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1日平均	前年度
7.9	7.7	7.2	6.7	7.2	7.0	7.2	6.5	6.8	7.1	7.0	7.0	7.1	8.8人
65.7	66.7	60.3	56.2	60.1	58.7	59.9	54.2	56.7	59.0	58.7	58.0	59.3	73.6%

<要介護度分布>

(平成26年3月登録者)

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度	平均年齢
0	0	16.7%	38.8%	27.8%	16.7%	0	2.4	81.7歳

(2) 苦情等

送迎ミス	1件	言葉遣い	1件
------	----	------	----

○ひやりはっと

	転倒	転落	送迎	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	忘失	異食	離設	食事	破損	伝達確認不足	利用者間	交通事故	その他	合計
25年度	1	1	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	3	1	0	1	12
24年度	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	8

○事故報告件数

	転倒	転落	送迎	服薬	入浴	誤嚥	ケガ	忘失	異食	離設	食事	破損	伝達確認不足	利用者間	交通事故	その他	合計
25年度	3	0	1	0	0	0	1	1	0	2	0	4	1	0	0	0	13
24年度	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	6	13

*説明 転倒等による骨折など受診を要する事故は発生していない。

2 平成25年度重点事業の結果

重点事業	結果 (成果説明、評価、今後の課題)
1. サービス提供時間変更への対応	
7-9h滞在に向けたアプローチ	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7-9h滞在では、夕方から他の利用者数が少なくなり、その不安から落ち着きのなくなる方が多い。そのためまとまった活動より声かけや寄り添いなど個別の対応が必要となった。 ・また、今年度は7-9滞在希望者はもとより、新規利用者の獲得が困難な年度となった。単独認知症デイの単価の高さが影響していると思われる。年間を通して死亡による中止者や特養入所者、また状態低下しきの認知症デイへの登録変更となる方も多く、利用者の安定した稼働を維持することが出来なかった。 ・単価が高くても一人一人の認知症の状態に合わせた丁寧な個別ケアができる点を紹介し、次の利用者獲得に繋げるべくケアマネ見学会を1月に実施した。
2. 事業所の特色づくり	
住み慣れた地域との連携や家庭的な雰囲気大切にす。	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽度・中度の認知症デイの方を対象に楽しめるデイ作りを進めてきたが、通所者の機能低下や認知症進行の為、曜日によっては谷中らしい家事や園芸などの活動が困難なことも多くなってきた。 ・一方では、一人一人の認知症状に合わせた入浴時間の設定や活動の工夫で個別の支援ができ、少人数の谷中ならではの良さが出せた部分もあった。 ・中学校との関わりはH24年度のボランティア部の発足後、部員を中心に交流を深めることができている。

3. 家族支援の強化	
①職員の気づきの力を高め、家族支援につなげる。 ②家族懇談会の実施により、安心して話のできると施設と家族及び家族間の関係の構築を図る。	成果 ・家族への報告は連絡帳の記載を丁寧にし、また定期的に活動の様子を写真で伝え喜ばれた。活動内容を理解して頂くことで、円滑な通所に繋がることもあった。 ・通所になじめないご利用者や不安の多いご家族には、自宅への訪問も行い説明や傾聴等で介護負担軽減に努め、信頼関係を深めることができた。 ・年度末にさのデイと合同で家族懇談会を開催。他者の介護の話が直接聞けて力になったと好評であった。
4. 介護事故を起こさない。	
①環境の整備、点検を行う。 ②職員の介護技術の向上のため職場内研修の実施 ③職員の動きの見直し	成果 ・今年度も大きな事故等なく過ごすことが出来た。 ・担当職員間の会議を定期的に行うことで情報や留意点の確認ができ、職員間の連携や事故防止にも繋がった。

平成25年度 足立区さの指定居宅介護支援事業所事業報告

平成25年度 事業報告

1 事業運営

職員数 4名（正規2 契約職員 2名）

(1) 利用実績

1 ケアプラン数（平成25年4月～26年3月）

上段・・・介護プラン数 下段・・・予防プラン数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
130	129	134	137	130	132	136	133	135	132	131	133	1592
12	12	13	13	14	13	14	14	14	12	9	9	149

総ケアプラン数(H25年4月～3月)

介護給付プラン数 1592件(24年度 1570件) 1ヶ月平均 132.6件 (130.8件)

予防給付プラン数 149件(24年度 117件) 1ヶ月平均 12.4件 (9.8件)

2 介護認定調査数（H25年4月～H26年3月）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17	20	25	23	27	18	23	13	28	20	19	22	255

総認定調査数 255件(24年度 213件) 1ヶ月平均 21.3件 (17.8件)

(2) 苦情処理

相談・苦情数 相談 1件 苦情 0件

- ヘルパー事業所からさの包括に利用者が当居宅の担当ケアマネジャーに対して不信感を訴えていると相談が入った。状況確認後、誠意を持って対応し落ち着いた。
- 利用者・家族より、併設のデイ・ショートステイ職員の対応に不満がでることもあったが、定期・臨時訪問し、誠意を持って対応する事で苦情にまでは至らず。

2 25年度重点事業の結果

重点事業	結果（成果説明、評価、今後の課題）
1. 主任介護支援専門員を3名擁する事業所として地域に貢献する。	成果 ・地域包括支援センターから困難ケースの依頼があった際は、積極的に受けつけ、包括や関係機関と協働する事に努めた。 困難ケース：5件 ・特定事業所加算の継続 夜間相談 48件 休日相談 111件 その他平日早朝等 68件 :合計 227件に対応してきた。 ・年間認定調査数 255件。月平均 21.3件 ・上記全て（ケアプラン数・認定訪問調査数・電話対応）において、昨年度を上回る事が出来た。
2. 指定居宅介護支援運営基準を遵守する	成果 ・地域ケアネットワーク・事例検討会・認知症研修・医療と介護の連携検討会・居宅部会等、必要な研修に参加し、職員間で共通認識を持つ事が出来た。 ・自立生活支援の理念に添ったケアプランを作成するため利用者各自の思いや有する能力を最大限引き出せるようなプランの作成・更新を行ってきた。 ・関係機関に対しては、サービス担当者会議や日頃の連絡などで、利用者支援の共通認識を持つ努力を行った。 ・週1回居宅会議を開催し、職員間の共通認識を持ち、協働体制を整えた。

平成25年度 足立区地域包括支援センターさの事業報告

1 事業運営

職員数 7名（常勤 専任 5名 契約 1名 専任事務パート1名）

(1) 利用実績

○ 支援センター項目

1 相談件数 (数字) 昨年度

来所	電話	訪問	合計
1063 (829)	3595 (2575)	1684 (1336)	6342 (4740)

2 相談者 (数字) 昨年度

本人	家族・ 親戚	民生 委員	協力員	公的 機関	医療 機関	近隣 住民	ケア マネ	事業者 等	その他	合計
2149 (1810)	1339 (1028)	80 (49)	20 (13)	698 (482)	370 (283)	153 (109)	998 (624)	480 (311)	47 (31)	6342 (4740)

3 相談内容 (数字) 昨年度

介護 予防	介護 保険	医療	他サビ ス紹介	ケアマネ 支援	あんしん ネット	介護等	サビ ス取次ぎ	権利 擁護	消費者 被害	虐待支 援困難
518 (523)	2540 (1940)	564 (395)	782 (508)	140 (41)	21 (18)	1206 (814)	154 (173)	226 (159)	27 (5)	756 (514)

絆づく り	その他	合計
141	92 (47)	7005 (5137)

4 加算事業 (数字) 昨年度

実態把握	介護予防 プラン作成	家族介護者 教室	介護予防 教室	地域ケア ネットワーク	緊急対応
1844 (1910)	(122)	4 (5)	28 (31)	4 (5)	0 (0)

5. 新予防給付 下段数字は昨年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直 営	145 (137)	138 (139)	139 (135)	138 (139)	135 (130)	135 (134)	130 (136)	129 (138)	129 (139)	127 (140)	126 (141)	127 (142)	1598 (1650)
委 託	78 (65)	75 (66)	78 (63)	83 (67)	87 (68)	95 (68)	93 (69)	95 (70)	101 (67)	96 (70)	89 (72)	90 (74)	1060 (819)

(2) 苦情等

なし

2 平成25年度重点事業の結果

重点事業	結 果 (成果説明、評価、今後の課題)
1. 足立区孤立ゼロプロジェクト (新規委託事業) <事業の基盤整備>	成果 1) 地域住民との連携 町会・自治会や民生委員による実態調査の段階で課題を抱えている高齢者の情報が多く寄せられた。その後の包括による初回アセスメントにおいても地域住民の情報・協力を効果的に活用することによって連携して事業を推進する体制を構築している。

<p>2. 総合相談・支援事 <増加する相談への対応></p>	<p>成果 1) 緊急性の判断 初回相談における緊急性の判断を重視する。相談件数の急激な増加により緊急性の判断を誤らないようチームとして情報を共有する体制を確保する。</p>
<p>3. 権利擁護事業 <高齢者虐待の早期発見・早期対応></p>	<p>成果 1) 高齢者虐待の予防 高齢者虐待のリスクの高い事例については、ケアマネジャーとの連携により継続的な支援を行う。 2) 終結を意識した対応 担当者間だけで安心して支援ができるようになった時点を目安に「終結」とし、その判断は行政と共有する。</p>
<p>4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業 <医療と介護の連携構築></p>	<p>成果 1) 「医療と介護が連携できる地域づくり」検討会の実施 「精神医療との連携」をテーマに実施。精神医療の実態や認知症施策についても学ぶことができた。 2) 認知症疾患医療センターとの連携 家族介護者教室や地域ケアネットワークにおいて協力を得る。また、認知症早期発見・早期診断推進事業の活用により2件の事例が入院等に繋がった。</p>
<p>5. 介護予防ケアマネジメント業務 <介護予防事業への効率的な参加勧奨></p>	<p>成果 1) 二次予防事業参加者の増加 圏域内における「らくらく教室」の会場が2ヶ所となり、参加者も増えた(年間延べ79名)。事業終了後、再度、参加を希望する対象者が多く、継続して法人独自の「ひなたぼっこ事業」や「貯筋教室」へも参加をしている。</p>
<p>6. 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築 <地域ケア会議の開催></p>	<p>成果 1) 地域課題の把握 足立区では平成25年度から本格的に「地域ケア会議」が開始されたが、当センターではすでに5回(単独4回・合同1回)実施をしている。足立区の中では最も開催回数が多く、個別事例の検討の積み重ねにより、地域課題の把握を進めている。</p>